九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[01]radix : 九州大学全学共通教育広報

https://hdl.handle.net/2324/20366

出版情報：radix. 1, 1994-03-30. 九州大学教養部
バージョン：
権利関係：

1994 4.8

radix

radix(ラーディクス)は、根、根源を意味するラテン語。ヒトの根源にまなざしを向け、豊かなこころの根を広げたい。

九州大学全学共通教育広報 No. 1

「ケニヤで地球を見た」(13頁参照)

創刊にあたって

このたび九州大学全学共通教育広報 radix を創刊することとなりました。4月より九州大学教養部は廃止になり，学生は入学直後から各学部に籍をおきます。そして，これまでの教養課程教育科目に替わって新しく設けられた全学共通教育科目を全学的な協力のもとで実施することになります。radix はこれまでの長い歴史をもった教養部報に替わって，全学共通教育科目を履修する学生を対象として発行される広報紙です。したがって，全学共通教育科目に関するさまざまな情報を掲載し，それによって学生がスムーズに科目履修できるように援助することを目的とします。それとともに，全学共通教育科目の履修が相対的に多くなるのが低年次の学生であるため，入学間もない学生が大学における科目履修や自発的な学習，さらに課外活動や学生間交流を含めた大学生活に早く慣れ，充実できるように援助することもその目的に含まれます。しかし，これらの目的を狭く解釈する必要はありません。radix が，学問・研究に関わるさまざまな情報を提供し，学生・教職員の意見交流の場としても機能することにより，大学教育の改善を進め，充実した活気ある教育の場をつくりだすために役立つことが期待されます。

全学共通教育と大学教育研究センター

前教養部長 押川元重（おしかわもとかず）

新入生の皆さん，ご入学おめでとうございます。今日から皆さんは九州大学の一員です。皆さんは，受験準備の拘束・抑圧感から解放されたうれしさと，新しい可能性への期待や希望で心を膨らませていることでしょう。それとともに，自らの責任で生活していくことへの不安も一部にはあるのではないでしょうか。皆さんに期待されていることは，近い将来，さまざまな分野において現代社会が提起する課題に進んで取り組むとともに，それぞれの分野をリードする役割を果たすことです。それに応えるためには学問を深く身につけることが必要です。大学における学習の特色は，それぞれの学生は専門を定めて，その専門を中心において学習を進めることです。それとともに，社会をリードする人間には，広範囲な事柄についてのしっかりとした識見を備えることが求められますし，定められた科目の履修とともに，自ら進んで行う学習も大切です。また，学生相互の交流や教師との交流も積極的に進めて欲しいと思いますし，皆さんが将来に悔いの残らない充実した大学生活を送って欲しいと思います。

本学では教育課程の改革を行い，それを本年度入学する学生から適用することになりました。それによって本学の教育科目は全学共通教育科目と専攻教育科目によって構成され，両者は有機的な連関のもとで4年（6年）一貫の教育として行われることになっています。また，教養部制度が廃止され，全学共通教育の企画・運営等を行う組織として，大学院教育研究センターが新しく設置されます。ここでは，新しい全学共通教育科目と大学教育研究センターについて説明したいと思います。

専攻教育科目がそれぞれの学部・学科ごとにその教育が実施されるのに対して，全学共通教育科目は全学の各学部・大学院研究科等に所属する教官が授業を担当して実施されます。全学共通教育科目はさらに，教養教育科目，言語文化科目，健康・スポーツ科学科目，基礎科学教育科目の4つに分けられます。このうち教養教育科目は，総合的に判断できる能力，それを支える関心の幅の広さと広い視野，学問・社会の変化に対応できる能力，さらには市民としての素養と高い教養に根ざした人間性を培うことを教育目標とする科目であり，基礎科学教育科目は，自然科学の基礎的な知識や方法を教える科目です。国際化時代に対応した外国語運用能力の向上と異文化を理解する能力の育成を目的とする言語文化科目の教育は言語文化部が担当します。また，高齢化社会を迎えて生涯にわたる健康づくりの習慣化とスポーツの生活上の修得をめざす健康・スポーツ科学科目の教育は健康科学センターが担当します。

全学共通教育科目は全学のすべての学部・研究科等の教官が協力して授業を担当することになりますので調整などが必要になります。全学共通教育の企画・運営の役割を果たすために設けられたのが大学教育研究センターです。センター長の統括のもとに設けられるいくつかの委員会（図を参照）の中心として，全学共通教育のカリキュラムや授業計画を審議するのがセンター委員会です。センター委員会のもとに設けられる全学共通教育実施準備委員会は全学共通教育を実施するうえでの連絡調整や授業計画案などの作成に当たります。さらに，この実施準備委員会のもとに教育科目区分ごとの実施部会が設けられます。

新しい全学共通教育の実施体制における特徴の一つは，全学共通教育自己点検・評価委員会が設けられ，全学共通教育の実施状況についての点検・評価とそれにもとづく改善充実の検討が恒常的に行われることです。この委員会ならびに教育科目区分ごとに設けられる評価改善委員会には，各実施部会の代表者とともに全学の各学部・研究科から選出された委員が参加します。教育活動についての点検・評価については未だその方法が確立しているとはいえませんので，新しい点検・評価の組織を有効に機能させるためには，試行錯誤を含めた経験の蓄積が必要ですし，外国を含めた他大学の経験を参考にしながらも本学の教育理念に沿った独自の工夫も必要になってくるでしょう。もちろん，点検・評価の方法の一つは学生による授業評価です。学生による授業評価については，すでに実施している大学の状況報告やさまざまな評価・論議があるところですが，教育の受け手側の反応をも考慮した真に効果的な教育を実施するために積極的に導入を検討すべきでしょう。もちろん，粗雑で性急な方法が逆効果をもたらす恐れがあることに注意を払わなければなりません。

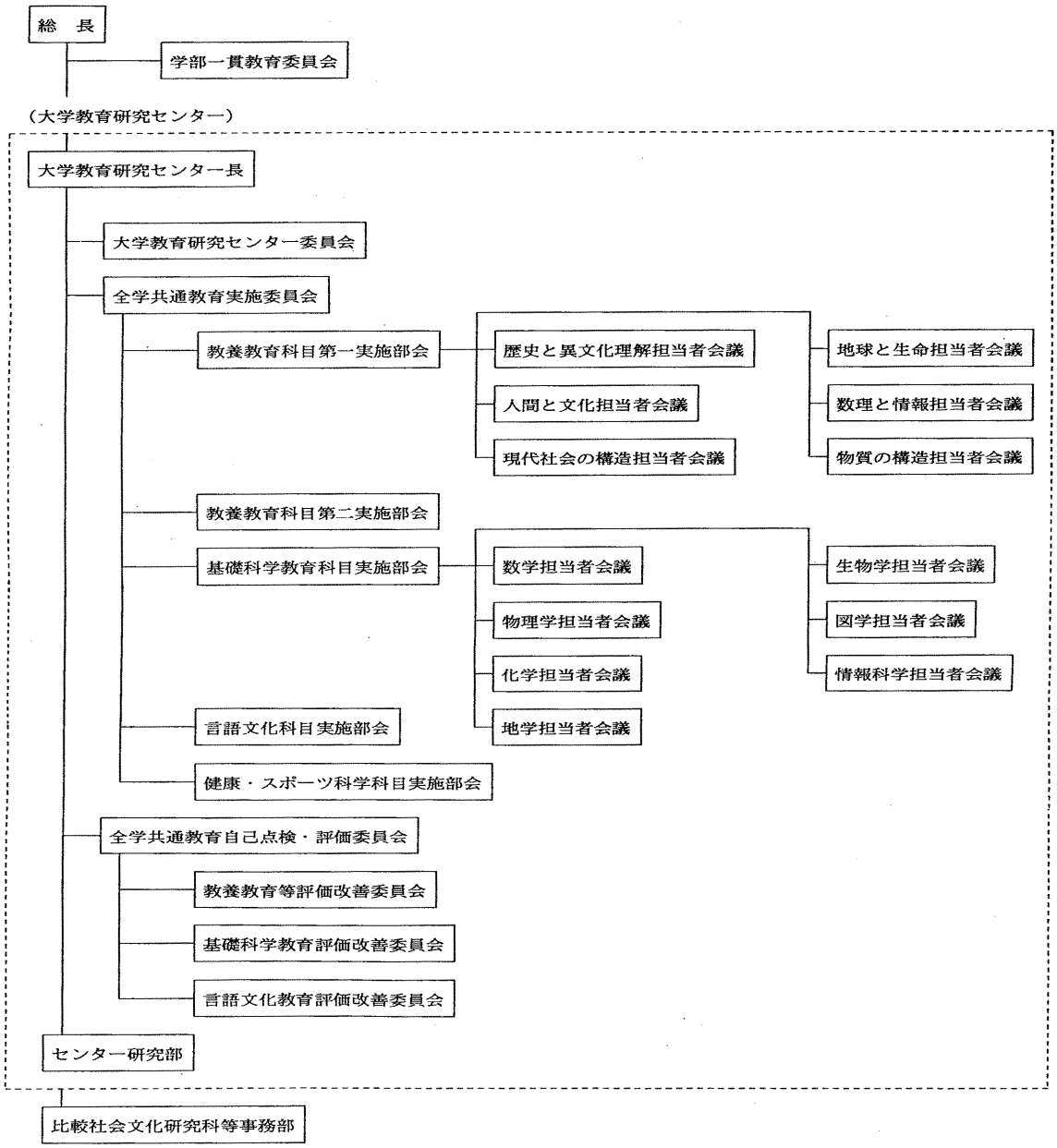
大学教育研究センターのもう一つの大切な役割は，大学教育についての基礎的な研究を行い，その成果を本学の教育改善に役立てることです。わが国の大学教育についての研究は必ずしも十分とはいえませんので，センターの研究活動が期待されるところです。もちろん3名だけのセンター専任教官だけでは，広範囲にわたる大学教育についての研究をカバーすることはできませんので，全学の教官の協力，さらに他大学の教官の協力を組織して研究を進めていくことになります。カリキュラム内容，授業方法，さらに

は学生による授業評価を含めた大学教育の点検・評価の方法等がセンターの研究の対象となるでしょう。

今回のカリキュラム改革及び全学共通教育の新しい実施体制の導入は，新制大学になって以来といわれるほどの九州大学にとって大きな改革ですので，実施状況を細かく点検しながら進めていくことはもちろんですが，細かな部分にわたる改善の積み重ねが必要となってくると思われます。例えば，平成6年度授業時間割は規模も大きく複雑であるうえに新旧カリキュラムが並行し教室数に余裕がないため，必ずしも理想的にできているとはいえませんので学生と教官の双方に不満が残るものとなっているようですが，これについても改善を進めていく必要があるでしょう。また，教養教育の柱として導入したコア教養科目についても授業内容などの改善を進めることによって，他大学に誇れるような立派な科目に育て上げることが必要です。全学の教職員は緊張感を抱いてこのような大きな教育改革の出発を迎えようとしていますので，改革成功のための学生の皆さんの理解と協力をお願いします。

付記　大学教育研究センター長が行うべき説明ですが，この原稿の締切の時点ではまだセンター長が決まっていませんので，代わって説明しました。また，平成6年度国家予算案の成立時期によっては，大学教育研究センターの設置が遅れる可能性があります。

全学共通教育運営組織



生涯学習へ向けて

菅 豊彦
(哲 学)

私は34年前の1960年に六本松に入学いたしました。この年は日米安保条約改定で日本国中騒然としており，政治に暗い私のような学生も教室に通うより天神の街頭で条約反対のデモに参加することの方が多く，私の教養課程は事実上空白になっております。

そこで，もしもう一度この六本松に入学するとしたら，どのような学生生活を送ろうか，と自問してみました。なお，ここでは専門教育ではなく，一般（教養）教育のことを考えています。この一般教育の重要性は常に指摘され，九州大学でもここ20年近くたえず改良が試みられ（つまり，理想と現実との乖離を常に背負ってきたということでもありますが），今年4月からの大改革に繋がっております。

ただ，もっと気楽に，私個人のこととして，どのように大学を利用するかということを述べてみましょう。たまたま5年前，英国の大学で1年近く独り暮らしをする機会があり，時間がたっぷりありますので，毎朝8時からラジオの放送大学を聞くのを日課にしていました。大変充実した内容で，その道の碩学たちが悠揚迫らぬ調子で講義をしております。それを聞いていると「学問などというものは一朝一夕にしてなるものではない」といったのんびりした気分になるから不思議です。例えば，「国家と反逆者」というシリーズの政治学の講議，また古代ギリシャ文明が現代にどのような影響を及ぼしているか，という15回にわたる講義，あるいはロマン主義の歴史についての講義が印象に残っております。

おそらく家庭の主婦や定年退職した人々，あるいは大学生（英国の大学は教養課程がありません）がこれらの講義の聴講者ではないかと思われます。大英博物館やナショナル・ギャラリーで古代の美術品や絵画を楽しみ，テレビやラジオでモーツァルトやビートルズを聞くのと同じように，ひとびとは放送大学を楽しんでいるのでしょう。

さて，私はすでに定年が射程内（まだかなりの距離はありますが）に入ってきている年令です。仮に，私がこの六本松で1年半を送るとすれば，どのような授業を聴講するでしょうか。まず第一に平安時代の文学をやってみたい。それもただ授業を聞くだけではなく，ある程度自分で読めるようになりたい。そのようなトレーニングを受けたいと思います。第二に日本国憲法。これはときどき読むには読むのですが(また関連する本も買うのですが開かない)，やはり講義を聞いてちゃんと学びたい。日本国憲法の背後にはどのような思想，どのような人間観があるのかを勉強してみたい。第三に，現代の先端科学技術が産業や国家の政策にどのような影響を与えているか。これは重要で，しかも私にはまったく無知の領域です。そのような講義も聴講したいと思っております。

改めてことわるまでもなく，ここに挙げたものは私個人が聴講したい講義であって，皆さんに推薦したいという講義ではありません。以上のリストには九州大学の一般教育の中核をしめるコア科目がありませんが，皆さんとってはそれがやはり重要だと私は考えます。

肝心なことは自分の関心に従って講義を選ぶことであり，できればそれを将来深めていきたいものです。したがって，私が聴講するとすれば，教師にどんどん質問するでしょうし，また必要で適切な文献を教えてもらいたい。九州大学の教師は国民の税金と学生の授業料によって存在しているわけですから，教師たちは当然われわれ学生にサービスする義務があると私は考えております。

野々宮君をさがす

嶌 洪
(生 物 学)

天が下に新しきことなし。毎年くりかえされる行事ともなると，新入生を迎えるにあたって，いまさら何を言うことがあるのか，という思いが強い。もっともそれはこちらの理屈で，新入生にとっては，すべてが新しいものかも知れない。これまでの管理教育とは違った，自由で深い学問への入り口に立っているのだという感慨に，新入生諸君は満ちているだろうか。それとも，大学というレジャーランドに遊ぶ希望に，胸をはずませているのだろうか。

例年繰り返される新学期に，今年もし何か新しいことがあるとしたら，新入生の皆さんが，これまでの九州大学教

養部ではなく，初めから各学部に所属するということであろう。しかしこれは諸君らの，主体的な選択ではない。もっぱら大学の都合でそうなったにすぎないのだと，諸君の立場からはいえるだろう。教養部が無くなるという事態は，大学が教養を必要とは考えなくなったということなのだろうか。

九州から出てきた漱石の三四郎は，東京の大学で様々なことに驚く。電車がチンチン鳴るのに驚く。至る所が建築中で，人の多いのに驚く。新学期が始まったというのに，授業が10日たっても始まらないのに驚く。いまでは九州から東京に出ても，これくらいのことには誰も驚かないが，新学期から10日たっても授業が始まらないというのには，今では驚かざるをえない。知り合いの野々宮宗八君は，世間から隔絶したような地下室で，光線の圧力を研究している。三四郎は，世間離れした野々宮君の研究にも驚いている。

大学は学問の府であるという。世俗の雑音を離れて地下の穴蔵で光線の圧力を研究し，新学期の始まりも勝手に遅らせることのできた時代には，三四郎のように，それを新鮮な驚きとして肌で感じることができたのかもしれない。大学が社会と隔絶した存在でありえた時代は，しかしもう終わった。世間は大学に効率的な教育を期待するし，研究成果や教育の，社会への還元を期待する。

六本松の共通教育の場では，毎日の授業の中で学問の府を感じるのは，いささか困難であるかもしれない。どこに行くにも便利ではあるが，それだけに狭くて，町中の騒々しさが通り抜けるようなキャンパス。かなりの過密カリキュラム。与えられた課題を消化するだけでは，これまで受けてきた教育とそれほど変わることはない。そこでは自由も感じられないだろうし，深い学問への道も見えてこない。授業とバイトに追われ，夏休み，学祭と消化するだけで，どうして学問を感じることができようか。

今の大学は三四郎の時代のそれではないし，社会的な要求も異なっている。諸君の大学への期待も，深い学問への道だけではないだろう。大学のレジャーランド化が言われて久しいが，そうかといって大学らしいレジャーランドに必要な遊具もスタッフも，そして何よりもソフトが大学にはまだそろってはいない。日本中の大学で様々な改革が試みられているのも，多様な要求を満たすための動きだと言えなくもない。学問の府を大学で感じるには，諸君が一人一人で野々宮君を探すしかないし，大学を知的なレジャーランドとするためにも，受け身ではない主体的な努力が求められるだろう。

大学にはいまだに，野々宮君だけは諸君のそばに，研究室のドアの向こうにたくさんいる。そこで知的レジャーランド計画を話し合うのは，今ではそれほど困難なことではないだろう。

先輩から新入生へ

―学生生活の1年目をふりかえりつつ―

鈴　木　一　弘（経済学部・93年入学）
竹　田　有　助（経済学部・93年入学）
インタビュアー：濱　野　清　志（カウンセリング）

濱野：1年間大学生活を送ってきた先輩として，どのようなことを感じ，考えたか，よかったことや，不満に思うことなど，いろいろな思いをいだいているだろうと思うけれども，そのあたりから聞かせてくれれば。

鈴木：自分は高校時代まじめだったから，大学に入っても単位など落とすことはないだろうと信じてたけれど，やっぱり大学にはいると遊ぶし，要領よくできる奴もいるけれども，できないのもいて，けっこう自分も今つらい身分で（笑）。

濱野：大学での勉強というのはね，高校までまあ順調にやってきた自分なりのペースがあって，それを続けていけばいいんじゃないか，という感じだった？

竹田：ええ，でも高校のときよりはやはり勉強しなくなったですかね。

鈴木：自分の興味のある教科は，必ず出てよく聞いたりとかはするんだけれども，それ以外のしかたなくとったというのは，自分自身行きたくないし……

竹田：そうそう，行きたくないけど，単位のためにとらなくてはならない，とか。興味のない勉強までしなくてはならない，とか。そんなものが大学になってあるんだなあ，と。

濱野：2人ともたまたま同じ学部で経済工学にいるんだけれども，なぜそこを選んだの？

竹田：僕は特に経済を勉強したいというのではなくて，試験科目の関係で，ここが有利だということで選んだんですよね。

鈴木：僕もそういうところがあったんですが，モロ理系か，モロ文系のどちらかにはまりたかったので，中途半端になったのが悔しいところですね。

竹田：まあ，専門課程になったら何か勉強したい科目も見つかるかもしれないし，だから，今は教養での単位をとることに専念している，という感じですかね。

濱野：入学した当時，こんなことしてみよう，あんなことしてみよう，とさまざま思っていただろうと思うけれども，どうですか。

先輩から新入生へ

鈴木：僕は心理学や考古学が好きて，そういうまさに文系の勉強をしてみたい，と思っていました。でも，僕のクラスやいくつかのクラスでは，教養で考古学がとれないんですよ，カリキュラム上。それはちょっと改善してもらわないと，と思います。

濱野：なるほどね，今度から大幅にカリキュラムが変わるから，今後そういったことができるだけ起きないような方がいいよね。

この一年，いろいろな講義を受けての感想は？

竹田：大学の授業はけっこう自由だなあ，というのは思いますね。授業中に何をしてても，人に迷惑をかけなかったら何も言われないし。

鈴木：人の多さですか。座れなくて，通路に座ってる人とか最初いて。それがだんだん少なくなって（笑）。

濱野：みんな，自分やまわりの友だちみていて，1年生が1番中心的に活動してる場所っていうのは，学生にとってどこなの？ここが学生生活の場，といえるような所って？

竹田：やっぱり大学の中で。

鈴木：サークルとか。

濱野：大学ではサークルだとか，いろんな人と知り合うチャンスがあるわけでしょ。特に九大のような総合大学のメリットとしては，文理にまたがっていろんな人間と知り合える機会がある。

竹田：僕はそれをねらって九大を受験したんですけどね。幅広い友だちがいた方がいいですし。実際，医学部や法学部や，いろいろな友だちができました。サークルや，大学祭などをきっかけにですね。友だちの友だち，とかで（笑）。

彼らとは一緒に遊んだり，飲みに行ったりとか。

濱野：そういうときって，学問の話，世の中の話とかをマジになってすることはあるの。

鈴木：何度かありますね。

竹田：だけど，たとえばなぜ勉強するのか，といったことなんかでも，少人数の特講やゼミなんかの授業では話すことがあっても，プライベートではあんまりしないかな。

濱野：みんなのプライベートな話題って，どんなのが主なの？

鈴木：うわさ話とかが多いんじゃないかなあ。パチンコで誰がいくら勝った，だから奢ってもらおう，とかね。

竹田：プライベートでは，討論みたいなことはしませんね。知合いどうしでは，いろいろ飲み会とかで集まったりはしますけどね。

鈴木：討論といった感じのことは，学祭の準備でいろいろと関係者の人と話したぐらいで，他にはやってないような感じです。

濱野：大学祭では2人とも実行委員としてがんばってたけれど，そういう仕事をしてみて，他の学生たちはどのようにみえた？

鈴木：もっと協力してくれればいいのに，というそのひと言につきますね。

濱野：みんなとは今度の新入生と大学でのシステムは違うことになるけれども，まあそうは言っても同じ大学生なわけで，彼らに何か先輩として，アドバイスというか，どんな所に視点をおいて大学生活を送るといいだろうなあ，とかいうことは，何かありますか。

竹田：将来の目標をもって過ごした方が，充実した毎日になると思いますね。

濱野：目標っていうと，どのあたりに向けての？就職までのとか，もっと先に向けてのとか。

竹田：そうですね。入った時点では就職まで考えればいいんじゃないんですかね。高校の頃を振り返っても，大学はできるだけ自分の行きたいところに入ろうと思って勉強したので，充実していたという感じがありますし，大学でも何も考えないとしたら毎日がダラダラとすぎてしまうし，やはり将来の目標ということで少なくとも就職の頃までを考えにいれておけば，毎日が生きてくると思いますね。

鈴木：僕は，みんな一応それまで毎日毎日徹夜勉強のかなり悲惨な生活を送ってきたんだから，1年間くらいは遊べばいいと思うし，3年まだありますから，2年目くらいから，専門をずっとやるようになって，先の見通しを立てて，資格をとるとか。

竹田：そうそう。早いうちに目標とか見つけたらそれでいいんですけどね。

鈴木：それと，自分の嫌いな教科は避けた方がいいです（笑）。

濱野：それはまたどうして？

鈴木：とるときに，科目は嫌いだけど，この教官はラクだからとってみようというのは結局ダメのように思う。難しくても興味のあるものならある程度とれますし。

濱野：それは失敗したのがあるわけ？

鈴木：あります(笑)。それにテスト前だけにがんばって一夜漬けというのもよくない。

竹田：単位とりたくもないのに，揃えるためにとらなくち

ゃならないというのは一夜漬けでもいいのとちがう？身につけなくてもいいもの，というか。自分に興味があって，身につけたいというのはふだんから勉強すればよいし。

濱野：そういうのは幾つぐらいあるの。興味がもてるものは。

竹田：そうですね，3つか4つぐらいかなあ。

濱野：目標をもってということだけどさ，それは大学に入ってから見つかってくるものなの？

竹田：大学にはいって1年の間くらいに考えたらいいんじゃないですかね。たとえば，医学部にはいる人は医者ですよね，歯学部は歯医者だし，そういう人はそれに向かって勉強してるわけだけど，それ以外の学部の人は，将来何になりたいか，とか1年くらいの間に考えた方がいいんじゃないですかね。専門で忙しくなる前に。

鈴木：目標ができなくても，まあ，将来困らないためにも資格なり何なりとっておくというのもありますしね。

濱野：いますごく不況といわれていて，実際就職難とかいわれているけれども，そういうことも考えたらね，自分の今の生活にそういうことって影響してる？それとも，あまり関係なくて，いずれは何とかなるさ，みたいな感じがあるの？

鈴木：僕は楽天的です。卒業する頃にはなんとか不況も変わってきてるさ，というような。

濱野：就職がひとつの目標であると，まあ，短期的にね。その就職というのも，単に就職先どこがいい，とかいうことじゃあなくて，どんな仕事がしたいとか具体的なものがあるわけでしょ。それと今の生活と結びくようなところはある？

竹田：そうですね。まだないですけどね。でも，そろそろ行動し始める頃かなあ。

濱野：大学に入ってはじめの1年間というのは，さっきちょっと「遊んだらいい」と言ってたけどね，やはり今までの中高の中で作られてきたものを自分なりに作り直す時期なんだろうとは思うのね。そういう意味では，この時期に目標をいろいろさがしてみようというのもそういうことだろうし，言い方を変えれば「遊ぶ」ということになるんだろうけれど。そういう意味でいうと，遊ぶっていうのは，どんなことになるのかな。

鈴木：軽く，そこそこ遊び，そこそこ勉強に打ち込んで。

濱野：学生の今の遊びというのは，どんなことしてるの。

竹田：やはり飲んだり，カラオケに行ったり，ボーリングとか麻雀とか，ですね。

鈴木：そんなもんでしょうね。あと，サークルで入っているスポーツなり何なり。それに打ち込む。

濱野：鈴木君はこの1年間これは遊べたぞ，ということはある？

鈴木：はっきり言ってほとんどないです(笑)。6月くらいから大学祭の準備の仕事をはじめてましたし。

濱野：まあ，でもそれはそれで，遊びというと違うかもしれないけれど，勉強とは違って自分のゆとりの部分で何かしていくという作業でしょ。仕事という感じなの？

鈴木：あれはけっこうきつい面も多くて，ゆとりのあるときは確かに楽しめたんですけれどもね。

濱野：大学1年の間にしかね。遊びも含めて，この時期にしかできないこと，できなかったこと，しておきたかったことなんていうと，何かある？振り返ってみて。

竹田：ちょっと思いつかないですね。1年の間はやっと受験から解放されたときだし。

濱野：今やってることに疑問をもったりとか，この生活でいいのかなあとか思ったりとか，そんなことは？

鈴木：何で大学にきてるのかなあ，とかは思います。大学にいること自体，こう言っては何ですが，僕は学歴をとるためというのがあります。

濱野：大学ならどこでもよかった？

鈴木：自分が満足できるところであれば，どこでもよかったんですが，それがたまたま九大であったということで。

濱野：なるほどね。そして，その感じは，入学してから今に至って何か変わった？その感じのままだと，ともかく卒業すればよい，ということになるように思うんだけど。

鈴木：そうですね。遊べるのは大学の間だけですからね。就職すると，もう完璧に仕事に入りますから。この時期に未練ないくらいに遊ぶだったら遊ぶ，と（笑）。

濱野：なるほどなあ。竹田君なんかはどう？

竹田：うーん。むずかしいですね。ちょっと分からないなあ。

濱野：大学にはそうするとあまり期待はなかったの？

鈴木：期待はありました。さっき言ったように自分の関心のある，まあ僕なら歴史関係なんですけど，そういったものは自分の知識を深めるようにしようと。大学は専門的な知識を深める場所だと考えれば，それ以外のときもあっていいわけですよね。あとは自分の好きなことができれば，と。

濱野：就職してからは確かに忙しいんだろうとは思うけれど，だけど，就職してから遊べないから今の内に遊ぶっていうのは何かさびしいことない？

鈴木：勉強ももちろんして遊ぶときは遊ぶのがいいと思う。おおっぴらにはめ外せるのはこれが最後だから。就職したら自分の生活問題まで発展するでしょ。そういう意味で。

濱野：まあ，実際的にいろいろできる時期ではあるよね。新入生の諸君大いに実験すべし，というところかな。今日はどうもありがとう。

〈学生生活と健康〉

学生生活と健康 ―定期健康診断とその後―

金谷庄藏（かなやしょうぞう）
（内科学）

新入学おめでとう。この文に目を通す頃は，もう入学時定期健康診断は終わっていることと思います。定健時の内科診察で一番多く見られる異常は，のどの発赤です。つまりウイルス感染症による上気道炎です。頻脈を伴っている場合は発熱や心炎（心臓の炎症）を起している場合も多く，心炎の場合は心電図検査においてもＳＴ－Ｔ異常として判定されることがあります。その場合，２次検査や約１ヶ月後の心電図再検査において異常なし・治癒のどちらかに判定されるまで，体育実技（今年から健康スポーツ科学実習）や運動クラブ活動の制限を必要とします。なぜなら，ウイルス性急性心炎は，命を落とすこともある病気だからです。昔から“風邪は，万病のもと”と言われている諺を思いだして下さい。

定健で次に多くみられる異常は，高血圧・肥満です。これらは，いわゆる成人病です。成人病とは，悪しきあるいは間違った食習慣やライフスタイルの結果であり“習慣病”ともいわれます。一旦発症するとなかなか治らず，次第に高脂血症や糖尿病を，そしてついには心筋梗塞・脳卒中となる，いわば真綿で首を絞められるようなやっかいな病気です。動脈硬化はすでに10代で始まっており，これが早く進行するか否かはそれぞれの遺伝と小児期以降のライフスタイル次第ということです。実際に，成人病は既に小児期からみられ，学会や医学雑誌には“小児成人病”という言葉が多く見られるようになりました。文部省学校保健統計調査報告書によると，小中高校生の肥満児傾向出現率は1969年に比し1983年には約2倍の10％強と増加しています。また，1980年の文部省研究班の血清脂質全国調査成績によると，25歳以下の日本人の血液コレステロール値はアメリカ人の若年者の平均値を上回っていることがわかり，こころある人は愕然としています。また昨年12月４日の読賣新聞に以下の記事が載っていました。長崎大では毎年，新入生を対象に血液検査を実施している。今年は五月に，81％に当たる1,360人が受けた。肝機能の目安になるGOTやGPTの値が正常値を越えた学生が71人(5.2％)，総コレステロールが220mg/dlを越えるなど脂質に異常があったのが196人（14.4％），尿酸が7.5mg/dlを越えたのが193人（14.2％）いた。さらに，この３項目のいずれかに異常があったのは348人（25.6％）にのぼった。うち66.4％が男子学生で，特に肥満気味の学生に多かった。データーを分析した同センターの石井伸子助教授は「本学の学生に限らず最近の若者は，野菜をあまり取らず肉食に偏ったり，スナック菓子や清涼飲料水で糖分や塩分を多く取る習慣がつくなど食生活が変わったことや，運動不足も一因」と指摘。さらに「データーの異常がそのまま病気というわけではない」としながらも，「こうした状態が長く続くと，将来，動脈硬化を起こし心臓や脳の血管が詰まったり，痛風になるなどの恐れがある。自覚症状もないことから関心が薄いが，今のうちから気を付けておかないと取り返しがつかなくなる」という。千数百年続いてきた日本人に合った食文化(日本食）から，戦後急速に洋食中心の食事に変わってからまだ50年にしかなりません。しかし，遺伝的に決まっている体の代謝系はそう簡単には適応しないのです。

与えられた問題をこなすだけの入試は，終わったのです。これからは，自分のこと・自分の回りの様々な環境への観察および適応などを自分で学び探求していって下さい。健康スポーツ科学の講義・実習でその援助ができると思います。

〈学生生活と健康〉

志望学部が所属学部になるとき

―進路の確認を―

園田五郎（そのだごろう）
（カウンセリング）

本年４月より教養部が廃止され，新入生は４年間（６年間）一貫カリキュラムのもと入学年度より一般教育の授業と専門課程の授業とを平行して学ぶことになる。専門科目と取り組む機会が入学早々得られるわけで，専門志向が高

〈学生生活と健康〉

く，かつ関心・興味がぴったり適合するなら学習意欲はいっそうかきたてられることになるだろう。また，上級生や大学院生などとの交流の機会にも恵まれることから各種の刺激を受け取るなどのメリットがある。昨年度までの，大学生活前半に教養課程科目を履修するという「ヨコワリ」型では「自分の好きな得意科目以外のものが多すぎる･･･」という声に大多数の学生が共感を示していた。専門科目，専門教育との出会いを一定期間おあずけとなる方式への不満が多かったといえよう。

ところで，入学当初より六本松と専門学部の両キャンパスで学習することに伴い，プラス面の期待と同時に，ひそかに懸念している事項がある。それは，学部（学科）選択の実状が合格可能性を優先させてなされていると伝え聞くからである。専門学部研究室の教官陣容や設備ならびに研究内容などを具体的に知る機会が増し，それが学部・学科への魅力を高める方向でプラスに働くことは十分に期待できる。しかしながら，物事には表裏があるのたとえのように，学部の授業に出てみたら自分の考えていた分野と違うという場合も予想される。改めて自分の興味・適性・能力の再検討を迫られることがあるかもしれない。あるいは選択を誤ったのではないかという思いがよぎるかもしれない。ここで慎重な再確認または再検討をすることが必要となる。単なる「目移り」という事例を見受けることも稀ではない。今までにも転学部・転学科の希望者と接する機会が多くあった。「転学部したい」というのみで，理由を問い返しているうちに「可能性がないならいいです。」と自ら打ち切ってしまう者が大部分だった。合格可能性だけが優先しがちな受験時の学部・学科選択，決定を繰り返してもらいたくない，筆者はそう願うほかない。

もともと進路を選択することは難しいことである。とくに現在のように目まぐるしく変動する時代にはなおさらそうである。受験に際して自信を持って選んだはずの学部・学科が間違いではなかったのか，と不安になったりもする。いまいちどふりかえってほしい。自分の将来の展望や自分の興味適性を考慮して選んだはずである。自分の興味や方向づけと大学，学部・学科との関連をつけたはずである。おそらく，ひとりひとりの興味，関心は成長過程のなかで培われたものであり，それをベースに将来を見越して選択決定がなされたはずである。ここでいう成長過程とは，あえて概略化すれば次の通りである。すなわち，小学校時代の興味中心の半ば空想的な職業選択の段階に始まり，自分の性格・能力・適性を考慮に入れた暫定的選択の時期を経て，高校時代の職業観や就職機会を考慮に入れた現実的な選択決定段階に至る。また，将来を見越しての選択という時，未来を選択することになるのだから未知なもの不明な点が出てくる，決断がつかないのも止むを得ない。また，入学後の学生生活を通じて，講義や読書，人的交流のなかで将来の自分を活かせる道がみつかるということもあるだろう。そして進路の再選択をめざし模索を思い立つということがあっても不思議なことではない。

現行の受験体制のもと，いわゆる無目的入学や不本意入学が問題視されている。入学後に本気で自分のものとしての進路を考えるのは殊のほか大切である。そしてもし，選択に誤りがあるとしたら再選択に踏みだすほうが賢明な場合もある。いま所属している学部学科を退学して自分の納得のいく大学，学部をもう一度受験しなおすということである。あるいはまた，退学の決断がつきかねるとか踏みだせない事情がある場合には在学学部を卒業したのち学士入学の可能性を探ってみる必要もあろう。

要は，進路についての諸問題を安易に処理しないことである。進路についての不安や迷いは恥ずべきことではない。むしろ，自分の生き方に責任を持とうとする態度の現れと考えられる。将来自分を活かす決定に慎重に取り組んでほしい。

〈留学生からみた日本〉

日本に来て感じた事

エイリサ・J.W.
（オーストラリア）

日本に来る前に私の事を心配していた両親に「半年後に帰って来ます」と言ってから6年間がたちました。

最初日本に来てびっくりした事は川や海岸の汚れやゴミに対する意識，どこにでもゴミを捨てても構わないかのようにどこを見てもゴミが多くて，日本人は自国を愛していないんだと今も思っています。そして田舎に行ってもあっちこっちに電車の線路や高速通路などがあって，便利がいいかもしれませんが，しかし完全に自然の残っている所は少ないと感じました。町にはきれいな建物がたくさんありますが，お寺と神社以外には歴史がある建物はほとんどないので淋しいと思いました。日本人はあまりにもメリカ志向でいやな感じがしました。たとえば，町に日本の国旗は

〈留学生からみた日本〉

めったに見かけないのにアメリカの国旗はあっちこっちに見えます。若者は日本の美しい文化には興味が薄くてだんだん消えていく気がします。

またもう一つ思える事があります。私は7年前に外国語を習いはじめ1番大切なのはその外国語能力や文法能力ではなく，通じ合うことです。言語の第1目的はコミュニケーションです。いくら上手に話しても心が通じなければあるいは自分の成功を見せるためだけのものなら，他の人に傷をつけてしまいます。私は福岡で専門学校（中国語科）に通っていた間と九大に入ってからも日本人によく言われる事は「授業は英語で行われているでしょう」と「漢字は読めないんでしょう」あるいは九大の先生に「レポートは英語で書いてもいいよ」，こう言われたらどうして日本で留学をしているだろうと考えてしまいます。外国人だからといって，特別視してもらいたくはありません。

最後に言いたいのは，日本人はよく自分たちの外国についての無知を「島国」ですからと言ってごまかしますが，日本はもう昔のような「島国」ではないのですから，そのような言い訳けはしてほしくないと思います。

日本とモロッコの違い

エル・ハドリ・アリ
（モロッコ）

日本の物価の高さ，一つの言葉も知っていなかった日本語の難しさ，日本と母国であるモロッコの間の距離等のために，初めてモロッコから学部生として日本に留学する私は日本に来る前に大変迷っていた。初め私は，フランスに留学しようと思い，6ヶ月間モロッコにあるフランス留学のための学校に進学した。しかし，評判の良い日本の教育レベルの高さとその学校の先生の勧めによって私は日本に行こうと決心した。

日本とモロッコとは異なる点が非常に多いので来日したばかりの時，この新しい環境に慣れないと感じた。しかし，私自身も驚いたほど数日間で日本での生活にすっかり慣れたと思う。

実は，日本と言う私にとって不思議な国は宝の山で，学び取るものは無限であり，日本社会は留学生にとって貴重な鍛練の場だと思う。

日本はすばらしい。歴史の古い日本はまだその伝統もしっかり守っている。桜，皿小鉢，お茶，人形，こたつ，生け花，はちまき，おみやげ，書等々は日本の誇りとすべきものと私は思う。習慣を守り，伝統を守るところは日本人とモロッコ人の共通点であると思う。お年よりの尊重もその一つであると言えよう。

最初に，私が気が付いたのは日本では昼休みが短いということである。それに対してモロッコでは昼休みが2時間もあって，お弁当や食堂を使用せずに，学生達も会社員も家まで帰って家族と一緒に昼食を食べている。国では家族と一緒に食事をすることと家族関係は重要なこととされている。そこで，父親の経験を聞き，両親のやり方を〝遺伝的〟に受けるのである。その結果，モロッコ人の考え方は個人によって違っているわけである。また地中海の国としてモロッコ人は論争や議論や知らぬ人との会話を好んでいる。喫茶店の数の多さがそれを示すのである。一方，遅く家へ帰る日本の父親は自分の子供に対する教育にあまり影響がなく，皆，母親と学校から同じ教育を受け，同じ思考を持つのではないかと私は思う。

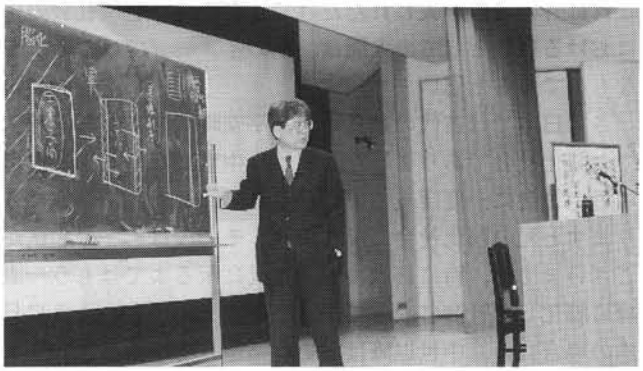
いずれにしても日本に来て良かった。もっと日本の文化を正しく理解し日本人と付き合いたいと望んでいる。

〈文化講演会録〉

九州大学学生会館第27回文化講演会：1993年12月4日(土) 14：00～

人間はどこまで自然か

講師：養老孟司氏
(東京大学医学部教授)



講師のプロフィール

略　歴

1937年　鎌倉に生まれる。
1962年　東京大学医学部卒業
現　在　　東京大学医学部教授（解剖学），医学博士

［主な著書］

「ヒトの見方」(筑摩書房)「形を読む」(培風館)「唯脳論」(青土社)「涼しい脳味噌」(文芸春秋)「脳の中の過程」(哲学書房)「脳に映る現代」(毎日新聞社)「解剖学教室へようこそ」(筑摩書房)「講座　進化」(共編著、東京大学出版会）ほか多数

養老でございます。自然ということで，人を含めてどう考えるかということについて，話してみようかと思います。私の仕事は解剖学でございまして，人間の体，特に亡くなった人を見るということです。この死体というのは，日本では何か特別なものと考えられているという気が致します。そのようなものは一般社会では気味の悪いもの，あるいは何か奇妙なものと考えられておりますが，今私が申し上げようと思っている自然というのは，実はそういうものです。亡くなった方は人間の自然性を非常によく表しているような気が致します。例えば脳は皆さん方の頭の中には一つずつ入っておりますけれども，これは見えませんので社会にはない。そして社会というのは，実はこの脳が作ったものである。もし脳を替えますと，たぶん社会が違って来る。チンパンジーの脳の大きさは人間の約3分の1でありますので，彼らが作る社会は非常に違った社会を作ります。ですからそう考えますと，基本的には社会は脳が作っているのではないかという気が致します。さらに別な言い方を致しますと，社会の中で非常に困ったことが起こる時がありますが，それは脳が壊れた時，あるいは故障した時であります。脳が故障した時というのは，現在非常に問題になっておりますぼけ問題がそうでして，脳の機能，特に大脳皮質の機能が非常に落ちてくる場合にぼけが起こります。あるいは精神病の問題が典型的ですが，一見外見上全く問題ないにもかかわらず，やることがおかしい。そうしますと非常に社会的に困りますので，社会の側からそれをある意味で線を引き，排除するということが起こります。つまり病院に入れられ，隔離されるということが起こるわけです。ですからそういうことを考えますと，社会というのは基本的には脳の働きで縛ってきているのではないかなと思います。社会の中には非常にたくさんの約束事がございますけれども，そのすべては基本的には脳が作っているわけです。

社会を四角で囲み，それが一応自然との境であると考え，中に皆さんがいるわけです。この中に入っておりますこの体は，私の考えでは自然に属します。なぜかというと，体は自分で作ったわけではありませんし，親の方も子供をこうしようと思ったつもりはないと言います。つまり全くつもりがなくて勝手に出来るものですから，これはすなわちそういうものを私は自然と言います。ご存じのように，人間に服をかぶせて来ないと，社会の中に入れてもらえません。そして服を着るということから，実はこの社会という枠の中には自然はあってはならないのではないかということがわかってまいります。ですからそれはやはり社会というものが，ある約束事としてその中に自然を置かないことにしているのではないか。そのように考えますと，我々が持っている自然性は，身体なり死体なりに一番きれいに出て来ます。それが社会でいかによく隠されているかということに気づかれると思います。例えば日本では人が死にますと，大急ぎで火葬場へ持って行って焼いてしまう。これは比較的最近起こった習慣ですが，火葬しないでおくと，人間の自然性がますます強く表現され，甚だ都合が悪いので，しまってしまうことになります。このような社会を私は人工，すなわち人間が作ったものであると言っても良かろうと思います。そして取り替えることが出来るのが，人工物の一つの特徴であります。それに対して自然のものは自然環境であろうが皆さん方自身であろうが掛け替えがない，つまり一つしかないとしばしば意識されるのです。日本の常識としては，個人はむしろ体ではなくて，心と結びついていると思います。心というのは脳の働きでありますが，このようなものと結びついているのですから，実は掛え替えがあります。なぜかといいますと，皆さん方も持っている感情なり，理屈なりが相手に通じた時は，そういう

〈文化講演会録〉

ものをお互いに共通して持つことが出来るわけで，それは最終的には個人ではなくなります。しかしそういうことは体では出来ません。私の心臓が動いているからといって，皆さんの心臓が動くとは限りませんし，その逆も同様です。そうするとそれは正に掛け替えがないと言えます。そのように考えると，ここで申し上げている人工と自然の違いは，別な表現をしますと，脳と体の違いと言ってもいいし，個人をどう見るかということにも係わってくるのであります。

次に我々が住んでいる社会を歴史的に見てみようと思います。江戸の社会は日本で典型的に脳化社会，人工社会が出来上った時だと考えます。脳化した社会にはまず第一に人工空間を作るという特徴があります。江戸の町はまず江戸城を作るために山を削って，平らな土地を高い所に作って，堀を掘っていますから，相当に土砂が出ますが，その土砂で埋め立てました。そして道路は碁盤の目の道路で，しかも木を切ってさら地にして家を建て，船でものを運ぶために川の流れを変えました。それから人工空間に伴って我々が社会と認識しているもう一つの空間がありますが，それは例えば官僚制あるいは法制度，法律，身分といったものがそうであります。江戸の身分には士農工商があると習いましたが，今の歴史家は職能区分であると言っています。この間にはちゃんと行き来が出来ましたから，商人が御家人株を買って侍になったということが可能でありました。しかしこの江戸の身分制度で，私が解剖学との関係でいつも注目しておりますのは，この外に出た非人という階級であります。この人達が実は死体を扱う人達であった。それはつまり日本では社会というものが非常に強く人間を規定したわけで，この中に住んでいる人が人間であると考えます。そしてそこでは脳化社会，つまり脳が徹底的に優先するような社会が出てまいります。

明治に移りますと，一応士農工商でない狭い意味の身分制度はなくなりますが，同時に二本の制度をたてます。その一つの医療制度は明らかに人間の自然を扱うもので，それを西洋から取り入れて作りました。それでこの医療制度をどう考えているかといいますと，だいたいこれは具合が悪くなったら入るもので，普通は行ってしばらくしたら帰ってくるというつもりでおります。そして明治時代のもう一つの制度が軍であります。どちらも体ごと丸ごと預かってしまうことが似ています。つまりこの二つの制度が実は明治の日本を特徴づけた人間性の自然を取り扱う面であります。江戸の社会は人間の自然性を排除する脳化社会でありますから，そこにどっぷりつかった人達は身体・人間の自然性に対する感覚のない太平の民であります。だから正に戦争をする明治の軍隊がそれを引き取った途端，そういう人達に身体について教えなければならない。しかしとても手間暇はかけられないので，いきなり殴るわけです。殴られた瞬間に無意識・感情一切を含めて，体の存在ということがいやという程わかるはずです。

戦後になりますとこの医療制度だけになりますが，現在これがどんどん変って来ており，皆さんの身体は実は数値，つまり測定可能な物理化学量に変化しています。ですから皆さんが着物で隠しているごく普通の身体がどこかに消えかけておりまして，高齢化社会の問題や末期医療の問題で身体だけを物理化学にしてみてももう始まらないのです。これは外の自然が失われただけではなくて，現代社会の中における自然としての人間は，私のイメージではこのようなものであると思います。

さて日本では古代の奈良時代，平安時代もまたある意味での脳化社会でありました。しかし中世になりますと自然に近い社会に一度戻ってまいりまして，また江戸時代に入りますと元の脳化社会に戻ります。その後は若干の起伏がございますが，特に終戦後から現代に至るまではもう一直線に脳化した社会になって来ると考えます。このように日本の場合には，中世以降は歴史が循環していると思います。ではそれ以前の縄文時代はどうかと申しますと，たぶん脳化していない社会であろうと思われます。そして弥生時代は都市を作るわけですから，脳化が起こって，人工空間が日本で初めて出て来たのではないかと思われます。

このように日本の歴史ではぐるぐる回っておりますが，なぜでしょうか。私は自然というものをもう一度考える必要があると思います。つまり現代の高度先端技術文明を背負っているのは，アメリカと西欧と日本であります。これらの特にヨーロッパとアメリカの共通点は，ここ数百年かかって自然を徹底的に破壊して来た所だということであります。歴史を見てみますと，どうも人間の文明は，自然を破壊することからエネルギーを得て，ピューと進み，それが終るとストンと落ちてしまいます。日本の場合は循環していると申し上げたのは，日本の自然は相当強かった，つまり人間の行為と自然の強さとの間のバランスが案外良かったからだと思われます。日本には「花鳥風月」という言葉がありますが，「花鳥風月」とは自然ですから，自然という意識のあった文化であろうと思います。外部の自然の保護ということは，日本人らしく言えば，心の問題に戻って来ます。人々の心の中から「花鳥風月」（自然）の存在が失われていくことが，イコール外部の自然が失われていくことであろうと思います。「人間はどこまで自然か」と申しますと，人間も自然であり，同時に自然でない部分こそまた人間でありますから，そのバランスの問題であります。人間が自然である程度に外部の自然が残っているのが，一番ハッピーな社会であろうと思います。日本はそういう意味では，結構ハッピーな人達ではないかなという気もします。それはある意味で自然と共存して来たからであります。しかし現代の日本は危ないということは，ご存じの通りであります。

ご清聴ありがとうございました。

（文責・ドイツ語　田中　俊明）

表紙写真説明

「ケニヤで地球を見た」

宮地六美（みやち むつみ）
（地　学）

小学校の時，図画の点数が抜群に良かった。母親に「美術学校へ行きたい」と言ったら，母親は「絵じゃ食べていけん。それに，生活がジダラクになる」と言った。ジダラクというのは何か分からなかったけれど，悪いことに違いないと思って絵描きになるのは止めた。

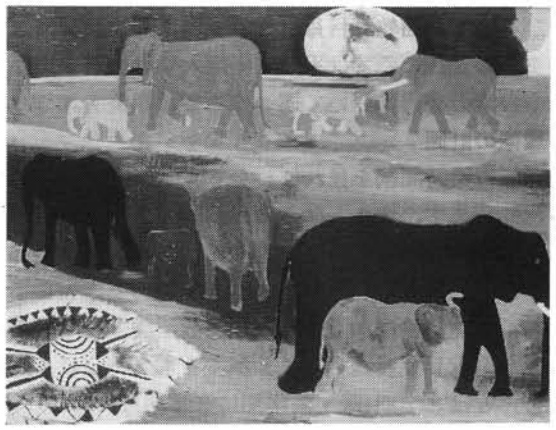
高校の時，理科は「地学」を選択した。先生は九大地質学科卒の若い男の先生であった。席は決めない，出席は取らない，時には生徒を野外に連れ出して地層を見せるという，大層，大らかな授業を先生はされた。その先生の人柄に惹かれて私も地質学をやろうという気になった。しかし，女が地質学をやって食べていけるかという心配もあった。先生に相談をすると，「大学に残って研究者になる方法もある。女でも出来る」と言われた。この先生の一言だけを頼りに，九大の地質学科に行くことにした。

地質学科では岩石学という講座で，火砕流の研究をすることになった。南九州の超大型火砕流である〝シラス〟や〝灰石〟を主として調べた。よその国の火砕流も見たくなって，アメリカ，イタリー，ニュージーランドへ出かけた。アフリカのケニヤにも火砕流があると聞けば，そこへも行った。ケニヤには，〝東アフリカ地溝帯〟と呼ばれる巨大な地球の割れ目が通っているが，その中は火砕流だらけであった。興奮した。この地溝帯を境にして，5000万年たったら，ソマリア，エチオピア，ケニア，タンザニアなどの国は，今のアフリカ大陸から分離して一つの大きな島になると言われている。その巨大割れ目の渕に立って，5000万年後の地球に思いを馳せ，自分の来し方行く末も，ついでに考え，ある種の感慨にふけった。研究の合間に，野生動物を見に国立公園へ出かけた。ライオン，しま馬，ガゼル，どの動物達も美しかった。象が群をなして悠々と歩いて行くさまは，とくに美しく，圧巻であった。これぞアフリカ。興奮して写真を撮りまくった。

2年前に油絵を始めた。絵のモチーフは地質学に関するものが多い。表紙の絵は，あの雄大な〝東アフリカ地溝帯〟を表現しようと，描き始めたのだが，それはいつの間にか地平線のところに見える白っぽい，1本の細い帯だけになってしまった。画面の大半は象の群に占領されてしまった。これじゃ，地質学者の面目が立たない。で，地球を1つ，デーンと空に置いた。それで，気持が少し落ち着いた。

この絵は50号の大きさで，2連作のうちの1枚である。右の部分がこの絵。左の部分はこの表紙にはないが，キクユ族の母親が赤ん坊を抱いている姿を描いている。この象の絵の左下にマサイ族の楯があるが，その楯で左右の絵をつないだ。右の絵に象の母子，そして左の絵に人間の母子を置いた。生き物の命がなるべく永く続くことを祈って描いた。日本からケニヤに派遣されて来た，ある会社の重役さんが，900頭(90だったかな？どちらにしても，相当数）の野生動物を撃ち殺したという話を現地で聞いた。「野生動物が滅びるということは，人間も滅びるんだ」ということを，その人は知らなかったのだろうか。

油絵を習い始めて，これは4ヶ月目（4枚目）の絵である。おととしの福岡市の美術展に2連作を持って行ったら，この象の絵が入選した。嬉しかった。ものすごく嬉しかった。やっぱ，地質学者より絵描きになっとった方が良かったでしょうかね？



◇新事務組織の案内◇

― 学生関係の掛から ―

新入生諸君が，六本松キャンパス内の環境をよく理解し，それに早く適応するために，また，2年生にあっては，新しい組織と制度を中心に学生生活に関係の深い事務窓口を紹介します。

なお、六本松キャンパスの事務窓口には、六本松キャンパスで主に修学する期間(医・歯学部は1年間、その他学部は1年半)の学生を対象としています。その期間を過ぎた学生はそれぞれ所属する学部の窓口に行ってください。

諸君の修学上及び学生生活上の必要な情報については，「学生案内」や『履修要項』並びに「公用掲示板」等に詳しく指示されますが，なお疑問の点や不明な点があれば，関係窓口へ遠慮なく相談し，誤解や怠慢のために，将来，自ら不利を招くことがないよう注意してください。

『学生案内』・『履修要項』・『広報』等を熟読するとともに，事務窓口や相談・助言指導を担当されるクラス指導教官及び学生指導(ガイダンス)教官，カウンセラーとも十分相談して，自らの学習計画や生活設計を立て，悔いのない大学生活を送りましょう。

なお，ここで紹介する掛の窓口業務の取扱い時間帯は次のとおりです。

ただし，**経理掛**については，金銭を取扱う関係で、当該掛の紹介文に記載のとおり異っていますので、注意してください。

平　日　　午前8：30～12：00
　　午後13：00～17：00

教　務　掛

授業科目の履修・受験，試験，成績等について

科目の履修・受験，試験，成績などについては**「履修要項」**及び**「全学共通教育科目履修の手引き」**で詳細に説明していますので，ここでは平成6年度入学者を対象に履修の計画や日常の心得について述べることにします。

科目履修の計画

授業は，授業時間割を見ればわかるように，クラス単位で行われています。皆さんはそのどれかのクラスに属しているのですから，何曜日のどの時限にはどんな授業があるかということは決っているのです。

ただし，教養科目は、同一時限に複数開講されているので，これを選択して履修することができます。これらの科目のほとんどは3学期(医・歯学部は2学期)にわたって聴講できるように時間割が組まれていますから，よく考えて充実した履修計画を立てるようにしてください。

これにひきかえ，言語文化科目・健康スポーツ科学科目及び基礎科学科目の授業は選択の余地がありません。必ずクラスに割り当てられた科目を履修しなければなりません。

なお，後期の授業時間割も公用掲示板に掲示していますので，参考にしてください。

履修・受験届

授業開始後第二週目に「履修・受験届」を教務掛に提出しなければなりません。この手続きを怠ると，たとえ授業に出席し，試験を受け，十分に学習したという実績があっても，単位は認定されませんので特に注意してください。

試験及び成績

定期試験は前期と後期の学期末(9月と2月)に実施されますが，これに合格してはじめて単位が与えられます。試験の成績は，定期試験終了後に個人別の「成績通知表」を配布します。

追試験については履修要項を参照してください。

成績証明書

奨学金，アルバイト，その他の理由で成績証明書が必要な場合は，印鑑持参のうえ教務掛に申し込めば約3日後に交付します。ただし，成績証明書は，成績や単位の確認という目的のためには発行しません。

所属学科の決定

入学時に学科が決定していない学部の学生については，本人の志望と成績順位等によって決定されます。

新入生については，平成6年度履修要項を参照してくだ

さい。

学　生　掛

各種奨学金について

日本育英会奨学金以外にも，各種団体の奨学金制度があります。そうした団体のことを各種奨学会と呼びます。各種奨学会の募集は公用掲示板で行い，これに応募した学生の中から，学業・人物・家計・健康状態などを考慮して総合審査を行い，適格者を奨学会に推せんします。

大学を経由せずに本人が直接奨学会に願書を提出する場合も，大学で推せん書の発行を受けるには，学業・人物・家計・健康状態などの審査を受けなければなりませんので，願書など奨学会への提出必要書類を持参のうえ学生掛窓口で申し込んでください。推せん書は申込み後発行までに数日を要しますので，早目に書類を取りそろえて申し込むようにしてください。

学生教育研究災害傷害保険について

学生教育研究災害傷害保険は，学生の身体に保険をつけるもので，学生(被保険者)が傷害(後遺障害，死亡を含む。)を被った場合，保険金が支払われる制度です。

保険が適用されるのは，①正課中，②学校行事中，③学校施設内(①・②以外)，④学校施設外で大学に届け出た課外活動中に起った災害事故に限られます。

支払保険の種類及びその額は次のとおりです。

○ 医療保険金　治療日数に応じて6千円から30万円まで

ただし「①・②以外の施設内」「課外活動中」の事故については，治療日数が14日未満の場合は入院加算金(1日につき4千円)以外は支払われない。

○後遺障害保険金　障害の程度に応じて45万円～3,000万円の範囲で支払われます。

○ 死亡保険金　「正課中」「学校行事中」の場合 2,000万円
「①・②以外の施設内」・「課外活動中」の場合 1,000万円

保険内容，保険金請求手続など詳しいことは「学生教育研究災害傷害保険のしおり」に記されていますのでしおりを窓口に取りに来てください。わからないことがあれば窓口でお尋ねください。

学友会保健部給付について

学友会保健部は学生の医療共済制度で，学生が在学中に病気，怪我等で治療に要した医療費の一部が給付されます。

給付の対象者は，学友会に加入した学生(正会員)に限られます。

給付金の範囲は，保険診療を受けた場合の本人最終負担額(往診料・文書料などを除く。)の50%です。入院料は，結核及び精神疾患の場合は，日額1,000円，その他疾病は日額800円が給付されます。

結核，精神疾患のため自宅療養中の者には，見舞金が，また，正会員が死亡した場合は，弔慰金がそれぞれ給付されます。なお，歯科については，九州大学歯学部附属病院で保険診療を受けた者に限り給付されます。

給付の請求方法としては，支払領収書(支払明細がわかるもの)を窓口に提出してください。請求及び給付金受領の際は，学友会会員証を必ず提出してください。

学生アルバイトの紹介について

学友会アルバイト部のアルバイト委員の協力のもとに窓口で家庭教師その他のアルバイトの紹介を行っています。

アルバイトの紹介を受けるには，あらかじめアルバイト登録をしておく必要がありますので，希望者は4月13日(火)～7月9日(金)の間に学生証と写真(上半身2.5cm×3.5cm)一枚を持参のうえ登録手続をしてください。

アルバイトを希望する者は窓口に備付けのアルバイト求人票(募集)の雇用条件や業務内容などを確かめて申し込んでください。応募者の中から申込順又は選考により決定されます。

なお，アルバイトに関する連絡は，一号館通路のアルバイト用掲示板で行います。

厚生施設について

学生の利用できる構内食堂は，学生会館，厚生センター，本館学生控室の中にあります。

その他厚生センター内には売店がありいずれも市内より廉価で，多くの学生に利用されています。

エレベーターの使用について

1号館付設のエレベーターは，歩行が困難な人のためのものです。利用希望があれば，厚生掛に申し出てください。一般学生の利用は遠慮下さい。

保健室について

本館1階にあり，保健室には保健管理医・看護婦が配置され相談業務(健康相談・精神衛生相談)を行っています。保健体育教室と連絡をとり，保健体育が出来ない学生の保健指導も行っています。

学　生　証

学生証は，九州大学の学生としての身分を証明するものですから，常時携帯し，紛失や破損しないよう大切に取り扱ってください。

皆さんの学生証は，それぞれ入学した学部の学部長名で

発行しています。

六本松キャンパスで主に修学する期間(医・歯学部は1年間，その他の学部は1年半）に紛失や破損した場合は，六本松キャンパスの学生掛に再交付の申請をしてください。

休学・復学・退学について

○1年生

皆さんは，身分的にはそれぞれの学部の学生ですが，六本松キャンパスで主に修学する期間は上記の申請窓口は六本松キャンパスの学生掛です。

ここで受理された申請書は，学部に送られて審議され，許可・不許可が決定されます。この結果を六本松キャンパスの学生掛から皆さんに通知します。

○2年生

皆さんは，身分的には旧規定のままです。上記の申請窓口は六本松キャンパスで主に修学する期間，1年生と同様六本松キャンパスの学生掛です。

また，受理された申請書の処理も1年生と同様です。

現住所変更・身上異動の際の届出について

現住所・帰省先・本籍地・保証人の変更や改氏名をした場合は，直ちに届出てください。届出を怠ると，大学からの緊急連絡を必要とする場合に連絡がとれないなど，不利益を受けることにもなります。

諸証明書の発行について

先に述べたとおり学生証は，それぞれ入学した学部の学部長名で発行していますが，次の3つの証明書は，六本松キャンパスで主に修学する期間中の学生については，大学教育研究センター長名で発行します。

発行窓口は，六本松キャンパスの学生掛です。

このうち，交通機関に対して発行する(2)及び(3)については，これにより割引乗車券を購入及び使用する場合は，学生証の提示が求められます。この際学生証の発行者名と証明書の発行者名が異なる理由説明が求められた場合は，学生証の裏面を示して学部と六本松キャンパスが離れているためであることを説明してください。

(1) 在学証明書

申請に際しては，必要理由(健康保険証の更新，税金の控除，○○奨学金申請等)及び提出先(○○市役所，○○会社等）を尋ねますので，事前に調べておいてください。

(2) 通学定期券購入証明書(通学証明書)

乗車区間は，住所(自宅・下宿等)の最寄駅から大学の最寄駅までに限られています。通学以外のアルバイトやクラブ活動などには，証明できません。

(3) 学生旅客運賃割引証(学割証)

帰省や課外活動などで，ＪＲを片道100㎞以上利用する場合，普通運賃が2割引になります。

有効期限は，発行日から3ヵ月間で，使用限度枚数は，年間1人10枚以内です。

学割証は，原則として即時交付しますが窓口が混雑している場合などは，翌日以降の交付となることがありますので余裕をもって申し込んでください。

学生相談関係

六本松キャンパスには，クラス指導教官・学生指導教官・カウンセラー等の相談・助言指導機関が設けられています。学生掛では，学習や課外活動上の疑問・精神的な悩み・大学への要望等で，みなさんが相談したい先生を紹介したり，資料を提出したりしていますので，気軽に申し出てください。

拾得物について

六本松キャンパス内での拾得物は，氏名が明記されている物は学生掛で取り扱っています。自分の持物には，氏名・学籍番号を明記するように心がけてください。

自動車等の入構駐車規制について

自家用車・自動二輪車・原動機付自転車・自転車での通学及び構内駐車については，次のとおり規制していますので，あらかじめ御承知ください。

自家用車について

身体障害者，病弱者等で大学教育研究センター長が自家用車通学を必要と認めた者以外は，構内乗入れを禁止しています。

障害者等で自家用車による通学が必要な者は，学生掛で手続きをしてください。

自動二輪車・原動機付自転車

(1) 通学距離が片道2㎞以内の学生には自動二輪車・原動機付自転車の構内乗り入れを禁止します

(2) 自動二輪車・原動機付自転車は，必ず南門のみから入構して整然と駐車してください。

(3) 定められた自動二輪車・原動機付自転車専用駐車場以外の駐車を禁止します。

自転車について

(1) 近距離通学者は自転車の利用を自粛してください。

(2) 定められた自転車置場以外の駐輪を禁止します。指定された区画内に整然と駐輪してください。

なお，違反駐輪自転車は，注意文をはったり移動したりしますので違反しないようにしてください。(20ページの指定場所参照)

キャンパスの美化について

1．喫煙について

廊下や通路等でタバコの吸殻を無神経に捨てる者が見受けられますが，これは美化はもとより火災予防の見地からも，絶対にしないようにしてください。

2．ゴミの仕分け回収について

六本松キャンパスでは仕分け回収を実施していますので協力してください。

(1) 不燃物及び可燃物に区分してゴミ箱を設置していますので，表示に従って捨ててください。

なお、段ボール箱等はゴミ箱の横に折りたたんで紐でしばって飛散しないようにしてください。

(2) 使用済み乾電池の廃棄について

一般廃棄物(ゴミ)中の廃棄乾電池に含まれている水銀等は環境汚染を招く恐れがあるので，九州大学では以前から廃棄乾電池は一般のゴミとは別に収集してきています。従って，学生諸君は乾電池の廃棄に際して下記の点に留意してください。

個人的な目的で使用した廃棄乾電池は，原則として，新しい電池購入のさいにその店に持参し，引き取ってもらってください。

やむなく校内に捨てるときは，必ず乾電池専用のゴミ箱に捨ててください。ただし，バイク等の蓄電池は，絶対にこれを捨ててはなりません。

学生が使用できる掲示板について

学生用の掲示板は，グランド西側(体育館前)・厚生センター下通路等にあります。建物やフェンスに掲示することは禁止されていますので，掲示は，必ず，「学生掲示板」を利用してください。

寮務・課外活動掛

課外活動について

サークルや同好会などの課外活動団体を結成した場合は，「団体届」を出すことになっています。すでに結成された団体でも，毎年，団体(継続)届を出さなければなりません。

課外活動の時間は，原則として授業終了時から21時までです。特に授業時間中や早朝には，音楽練習などしないよう注意してください。また，深夜に課外活動のため，諸施設を使用することは禁止されており，22時には全ての門が閉まるので，早めに帰宅してください。

正規サークル宛の郵便物は寮務・課外活動掛(共用施設事務室)，同好会宛の郵便物は学生掛前の郵便受けに入れていますから，各自受取ってください。

課外活動のための教室使用について

教室の使用

課外活動のために使用できる教室は次のとおりです。使用にあたっては，前日午前中までに課外活動掛で使用手続きをしてください。なお，使用日の10日前から予約申し込みができます。

Aブロック(124，131，132，134～136番)

1．使用目的：クラス討論会，読書会，サークル活動など。

(ただし，楽器などの使用は認めない。)

2．使用時間：月曜～金曜17時40分～21時

Bブロック(25番，特1番)

1．使用目的：25番……映写会

特1番…300名以上集まる講演会

(ただし，楽器などの使用は認めない。)

2．使用時間：土曜の10時～17時

Cブロック(10，11，110～114，125，126番)

1．使用目的：クラス討論会，読書，サークル活動など。

(ただし，10，11番については楽器などの使用は認めない。その他の教室についても，アンプ，拡声器等の使用は認めない)

2．使用時間：月曜～金曜　17時40分～21時

土曜・日曜・祭日及び，夏季休暇中(7月11日～9月6日)・春季休暇中(4月1日～4月6日)　10時～17時

以上3ブロックのほかは使用が認められていません。なお，音楽練習などのために使用する場合(特に楽器を使用する場合)は，窓や出入口のドアを閉め，地域住民や教育・研究の迷惑にならないよう心掛けてください。

学生集会所(亭々舎)の使用について

亭々舎は，和室が2部屋(A室36畳<約50人収容>，B室28畳<約30人収容>)あり，研究会・読書会・懇親会などに利用できます。使用時間は，夜8時までで，1か月前から予約申込みを受付けます。準備や後片付けは，使用者自身が責任をもって行ってください。また，泥酔したりして，付近住民や管理人に迷惑をかけないようにしてください。特に急性アルコール中毒になるととり返しのつかない身体になることもありますのでくれぐれも注意してください。

九重研修所(九大山の家)の利用

六本松キャンパスで主に修学する学生が，九重研修所(九大山の家)や九州地区国立大学九重共同研修所を利用する場合は寮務・課外活動掛でも手続きができます。利用にあたっては，学生案内を参照ください。

経　理　掛

授業料・寄宿料(寮費)について

授業料は，前期分が4月1日から4月30日まで，後期分は10月1日から10月31日までの間に，必ず，納入しなければなりません。

寄宿料は，毎月20日までに，納入することになっています。

窓口の取扱い時間帯は次のとおりです。

平　日　　午前　9：00～12：00
　　午後　13：00～16：00

附属図書館六本松分館の4月からの開館について【閲覧掛】

平成5年度は，九州大学附属図書館教養部分館と称呼していましたが，6年度より九州大学附属図書館六本松分館と改称しました。新学期は4月11日より開館します。

本年度より入退館システムが導入されました。4月8日に「学生証」と「図書館利用者票」を六本松キャンパスの体育館で交付します。

入館するためには，「図書館利用者票」がないと入館ゲートが開らきません。図書を借りる際にも必要です。常に携帯しておいてください。

当面の開館時間は次のとおりです。

月～金：9時～20時
土曜日：10時～16時30分

詳細については，「図書館利用案内1994【簡略版】」を参照してください。

相　談　室　一　覧

教養部には学生のための相談室として下記のものが設けられています。直接出向いて気軽に利用して下さい(詳しくは「学生案内」などを参照されたい)。

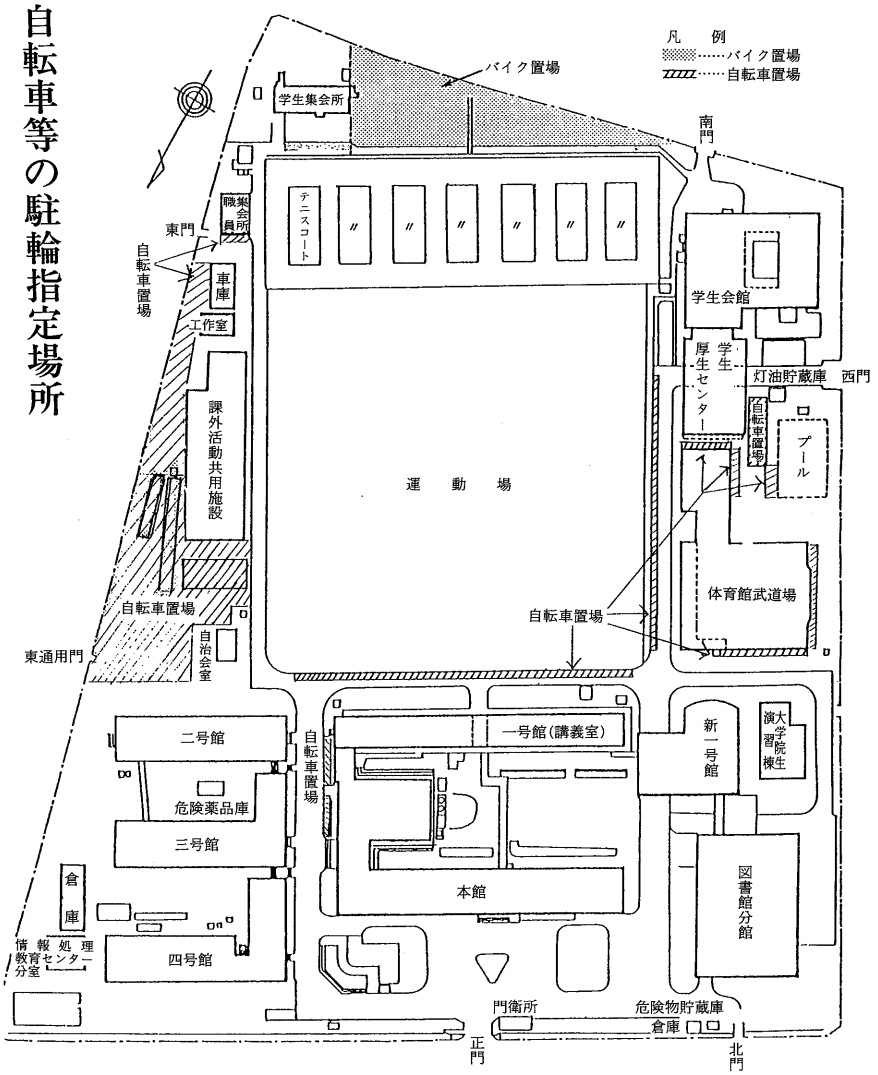
相談内容	業務・相談内容	受付時間	担当者(内線電話)
カウンセリング・ルーム(本館1階)	心理的不安や，対人関係の悩み，進路選択の悩みなどの個人的・心理的問題	10：00～16：00	藤原教授 (273) 吉良助教授 (273)
学生指導教官室(本館1階)	個人的問題，学生生活上の問題など	〃	園田教授 (374) 濱野助教授 (403)
保健室(本館1階)	疾病・負傷などの健康上の問題	〃	保健指導医師 看護婦 (218)
健康・スポーツ相談室(本館1階東)	健康・スポーツ問題，正課・課外体育活動	〃	健康・スポーツ科学担当 (342)

諸手続等一覧表

願・届出等の手続用紙は，関係窓口に用意されていますから，必要の際は請求ください。

掛名	種別	手続要領・期間等	注意事項
学生掛			
	日本育英会奨学生募集	(1年1次) 4月中旬 (2年1次) 4月中旬 (1年2次)10月中旬	1年生 2年生 1年生
	進学届提出 在学届提出	4月8日から4月13日まで	1年生 1年生
	資格確認	5月中旬， 11月中旬	2年生 1・2年生
	授業料免除 平成5年度後期分 平成6年度前期分	(願書交付) 6月中旬 (〃) 1月下旬	
	各種奨学会募集	4～5月頃に集中する。	○県・市・町・村の奨学金は，各自，教育委員会へ問い合わせること。
	学生教育研究災害傷害保険	加入は4月，10月の2回	
	保健部給付金	請求は6月下旬～翌年4月15日，随時	領収明細書
	下宿・間貸紹介	常時	窓口の紹介簿で各自選択
	アルバイト登録	4月13日から7月9日まで	同上 注 上記の予定を変更する場合があるので，詳細は掲示に注意のこと。
	通学証明書	学生証提示（即時交付）	
	学割証	〃 (原則として即時交付)	P.16参照のこと
	在学証明書	〃 (即時交付)	
	現住所変更届	〃	変更したら直ちに届出ること。
	保証人変更届		〃
	本籍地変更届		〃
	改姓・改名届	学生証・戸籍抄本提示	〃
	学生証再交付願	始末書(写真添付)・印鑑	紛失・破損したら直ちに再交付を受けること。
	海外渡航届	保証人承諾書・旅行計画書・招へい状(写)添付	
	休学願	保証人連署・(病気の場合は診断の書添付)・クラス指導教官の添書	P.16参照のこと
	復学願		
	退学願		
	自動車入構許可書	学生証，免許証，車検証提示。	身障者・病弱者で自動車通学が必要と認められる場合に限る。
	定期試験受験証明書	当該受験科目ごとに交付(受付は10分前から)	定期試験の受験に限る。
	盗難届		必要に応じ，警察署にも届出ること。
寮務・課外活動掛			
共用施設事務室	共用施設使用願	長期使用は，4月1日から4月20日まで 短期使用は，使用開始予定日の1月前から2日前まで	○使用する各サークル等の学生 ○使用する日の前日までに許可書を交付する。
	教室使用願	使用する日の10日前から前日の午前中まで	○使用責任者は、六本松地区で主として修学する学生(院生も含む。)に限る。 ○使用する日に許可書を交付する。
	亭々舎使用願	〃 3日前まで(1月前から予約可)	○使用責任者は、六本松地区で主として修学する学生(院生も含む。)に限る。
	団体届	既成の課外活動団体は4月末日までに，新たに結成した団体は，そのつど提出	
	九重山の家利用願	使用する日の2か月前から，15日前までに申込手続を行うこと(1年前から予約可)	使用する日の前日までに許可書を交付する。
	課外活動のための物品借用願	使用する日の前日までに申込むこと。	(貸出物品) 折たたみ椅子，折たたみ机，暗幕
体育館事務室	体育施設使用願	体育館・運動場・テニスコートを使用する月の前月の15日までに提出	体育施設使用心得（履修の手続き参照）を遵守すること。
	運動用具短期貸出し	貸出簿に記入し，学生証と引換えに貸出す。(土曜日を除く。)	体育館・運動場等で一時使用する場合
	登山用具貸出し	使用する日の1か月前から予約を受付ける。学生証・印鑑持参	登山用具等，大学外で使用する場合
学生会館事務室	学生会館使用願	使用する日の4週間前から前日（学外者を含む場合は1週間前）まで。学生証・印鑑持参	学生会館使用心得を遵守すること。
学生部寮務掛	入寮申請 松原寮	9月下旬～10月上旬	六本松地区学生掛③で申請書類を交付する。
	女子寮	9月下旬～10月上旬	〃

自転車等の駐輪指定場所



あとがき

六本松地区のこの激動期，教養部報編集委員会の最後の仕事がこの「radix」の編集であった。どのようなスタイルのものにすべきか，いろいろな議論があり，新広報紙の名称を決めることなど，多くの先生がたのお世話になった。特に論理学の森先生と科学史の高橋先生にはタイトルの件で貴重な御意見をおきかせいただき，大いに本紙発行の手助けをしていただいた。この場をお借りして謝意を表しておきたい。ともかく第1号がこのような形となって出来上がったことは喜ぶべきことと思っている。

専門教育充実の底流において，さまざまな知が根源において響き合うことを願って，この「radix」紙創刊の記念すべきあとがきとしたい。（は）

radix（ラーディクス） No.1 （九州大学全学共通教育広報）

発行日 平成6年3月30日
発行所 九州大学教養部

〒810 福岡市中央区六本松4—2—1
電話 （771）—4161内線214